

「力を感じる医療・福祉介護次世代ロボット」プロジェクト
事後評価報告書

日時： 令和2年12月10日（木） 9:30 ～ 11:30
場所： かながわサイエンスパーク西棟7階 708会議室
委員： 大谷内 哲也 テルモ株式会社 コーポレート R&D センター 部長代理
金子 真 名城大学 理工学部 教授
森川 康英 国際医療福祉大学 小児外科 病院教授
杉山 肇 神奈川リハビリテーション病院 病院長
櫻井 正己 KISTEC 事業化支援部 部長

報告者： 「力を感じる医療・福祉介護次世代ロボット」プロジェクト
プロジェクトリーダー 下野 誠通

上記実証化試験事業の評価委員会を開催した。事前に提出を受けた当該事業に関する研究報告書の確認、グループリーダーによる成果報告、事務局による決算、特許等の報告を受け、それらの内容について質疑応答を行った。その後委員にて評価に関する意見交換を行い、結果を以下のようにまとめた。

【総評】

研究業績として、ほぼ計画通りに達成できていることが見受けられた。特に中間評価における助言を受け、後半2年において、医療、介護の分野に絞り込むことで、民間企業、医学、看護などの専門家と議論を重ね、試作を行い、実装実験を実施することが出来た。また、論文、口頭発表、特許出願などを通じて成果の公表を確実に実施、さらには民間企業との共同研究も多数実施することで、外部資金の調達に成功した。

しかしながら、具体化した製品の臨床試験までは至らなかった。そのため研究成果の早期の社会実装に期待したい。

【各論】

① 研究業績

中間評価での助言を受け、

・リアルハプティクス技術と社会課題とがマッチする分野を医療・介護に絞り込むことで、民間企業、医学、看護、理学療法士などの専門家と議論を重ね、研究計画に対して概ね順調に遂行出来たと見受けられた。

・論文投稿・総評・書籍、講演、口頭発表、展示会、国内外特許出願および国内権利化等、4年間を通じて、コンスタントに成果の公表を実施した。

・予算総額の内、24.5%もの共同研究負担金、競争的研究資金を導入した。特に最終年は財源の内45.5%もの割合で研究資金を調達した。

② 研究成果の公表

4年間を通じて、コンスタントに成果の公表を実施した。

③ 研究成果の実用化・技術移転

リハビリ領域では臨床研究を実施、他の医療用途では臨床試験は未実施、そのため研究成果の実用化・技術移転までには至っていないと見受けられた。

④ 企業との共同研究

各テーマに対して様々な企業と共同研究を実施した。

⑤ 研究成果の今後の展開への期待

最終年度に共同研究、受託研究が増えていることから、今後の早期社会実装に期待があると見受けられた。

⑥ 研究の方向性の妥当性、研究計画の進捗状況

リアルハプティクス技術と社会課題とがマッチする分野を医療・介護に絞り込むことで、民間企業、医学、看護、理学療法士などの専門家と議論を重ね、研究計画に対して概ね順調に遂行出来たと思われる。

しかしながら、当初提案時の計画では臨床試験を計画していたが、リハビリ領域では臨床研究を実施、他の医療用途では臨床試験は未実施であった。

⑦ 共同研究負担金や競争的研究資金の導入状況

予算総額の内、24.5%もの共同研究負担金、競争的研究資金を導入した。特に最終年は財源の内45.5%もの割合で研究資金を調達した。

⑧ 経費配分の適切性

人件費27.3%、消耗品22.1%、機器購入・試作費36.0%、その他14.6%の内訳であり、テーマ進捗から見て順調であったと見受けられた。

⑨ 人員体制の適切性

テーマ進捗から見て体制が適切であったと見受けられた。

令和2年12月12日

委員長 大谷内 哲也

